

## 議事録

■開催日	令和 3年 7月 13日（火） 13時30分～15時50分		
■開催方法	ZOOM会議	■出席者	69名（別紙参加者名簿を参照）
■概要報告			
<p><b>1. 開会の挨拶</b> 小林会長より開会の挨拶があった。</p> <p><b>2. アドバイザー挨拶</b> 清水アドバイザーより以下のとおり冒頭の挨拶があった。 世界を見渡すと国境を越え初めている地域もある。来年にはインバウンドに軸足を置かなければいけないのではないかと。世界中で同時多発的に旅行者獲得競争が急に始まると思う。そろそろ意識を高めていただく必要がある。その時に観光圏のブランドやコンセプトが改めて重要になってくる。 今までの派手なものとは異なり、心落ち着くもの、共感できるもので幅広く観光客を獲得するチャンスなのかもしれない。</p> <p><b>3. 観光庁より 観光圏活動調査について概要説明</b> 観光庁観光地域振興課 橋本氏より以下のとおり説明があった。 観光圏の創設から10年以上経過しているが、観光圏の地域づくりが進んでいない地域があることを懸念している。観光圏認定の考え方や基準を整理したい。アンケートは行ったが、改めて実態の把握をさせて頂きたい。詳しい内容は委託先のオリエンタルコンサルタンツ江崎様より発表いただく。</p> <p><b>4. 観光圏活動調査経緯について</b> (小林会長) 内容と実態をアンケートでは見えにくい。自浄能力がどこまであるか判断するのも難しい、どういうものが地域づくりに必要なか、項目をあぶり出すのも難しいので江崎さんや第三者の清水先生らに考えて頂くことになった。 来年度、観光庁もある程度の方向性を示されて整備計画・実施計画を作成し令和5年に第4期があるとすれば、富良野・美瑛、雪国、八ヶ岳、にし阿波、阿蘇くじゅう、佐世保・小値賀の6つの観光圏が申請する。 観光圏整備計画は行政にも取り入れて頂いている。DMOより観光圏の方が、官民連携がとれる。DMOに無くても観光圏にあるのは観光地域づくりMGである。観光圏制度を継続していき地域のコンセプトに合った事業をとって、地域の方々と地域を豊かにしていければいいと思う。課題が見えたら、課題を解決し、第4期の観光圏に繋げていければいい。この過渡期を何とかいい方向に向けていければいいと思う。</p> <p>(清水アドバイザー) 2008年第1期観光圏が始まり、観光圏を動かしながらDMOという派生モデルが出てきた。 DMOも観光圏を参考にしてきた、と思われる。観光地域づくりのレガシーとなっている。制約を踏まえて、今、真に必要な観光圏はどういうものか。色んな意味で、政策目標が達成されているかどうか、政策に基づいて各観光圏はどういう立ち位置にあるのか、総合的なレビューをする時期にきているのであろうというのが調査の背景にあろうかと思う。 ここからは私の考えや思いも入るがDMO制度自体も、まだ盤石ではない。今後も微修正を加えながら進んでいくのではないかと。観光圏とDMOをどう連携・棲み分け・糾合させていくか多分、国としても考えないといけない。 観光圏制度と重点支援DMOがうまく整合できないか、と思う。将来的に糾合していくのが観光庁としてもわかり易いのではないかと。観光圏が特徴を発揮しやすいのは観光地域づくりMGが公的に位置づけられているかどうか。観光圏のレビューをする上で中心的な議題になる。MGの活動実態・制約・今後の活動についてあぶり出すと次の第4期があるとしたら参考になるのではないかと。 国もこの制度をどう思っているか問われるべきと思う。調査を補足する形でDMOと観光圏を少し違う形で</p>			

DMOと観光圏を観光庁と専門家の私が話をすることも必要かと思う。

観光圏に調査をかけると統一見解的な答えが多いので、工夫をして観光圏の中の行政や観光地域づくりMGの多様な意見を得たい。まずは、基本情報として回答をして頂く。結果を踏まえ、オンラインベースで議論させて頂くことも必要かと思う。立ち位置ごとにグループを分けて議論していきたい。

## 5. 観光圏活動調査内容について

オリエンタルコンサルタンツ江崎氏より、資料に基づき以下のとおり説明があった。（詳細は資料参照）  
昨年の2-3月に活動実態などについてアンケートをさせて頂いた続きという形。

10年経ってレビューをする時期、ということで観光庁から委託を受けて調査を行う運びとなった。

<背景・問題認識>

平成24年度・平成29年度に基本方針を改正。

観光圏13地域ある中で富良野・美瑛、雪国、八ヶ岳、にし阿波、阿蘇くじゅう、佐世保・小値賀は次回の認定が令和5年度になる。あらためて振り返りをする時期が令和4年度。そこで今後の観光圏の制度をどう整理するか方向性を決めるために今年度しっかり調査を行う。

観光圏整備法の施行から10年。他の地域に比べアドバンテージを有するべき。しかし観光圏同士で差が生じていたり、一定の水準に達していない等、アドバンテージが消失しているのではないかという危機感もある。認定観光圏に対して目標として定めてやっていくところを改めて整理したい。

<対応方針>

観光圏の取り組みを伺い、観光圏認定がどこまで大事なのか。一律的に認定していくのか、方向性を考える。

◇今年度やっていきたいこと

1. 観光圏の活動の実態と今後の方向性の整理
2. 観光圏の活動記録

◇観光圏の思想や認定水準

- ・アンケートの項目（5つ）
- ・5つの項目についてできているかどうか

◇項目は精査中である

- ・共通の質問
- ・PFへの質問
- ・MGへの質問
- ・自治体への質問

（清水アドバイザー）

調査は詰問するということではなく、今後の制度設計する上で、現状どうなっているか。

責めるタイプの調査にならないよう方がいい。

## 6. 質疑応答

（浜名湖観光圏）

・選択式もあるし、記述式（ヒアリング）もあるという理解でよいか。

⇒PF・自治体・代表者の皆様に選択式・記述式がある

・各観光圏の中でヒアリングした整理をフィードバックできるものになるか。

⇒自浄作用がある、効果があるもの。とりまとめは個人名は伏せるがフィードバックしてよいか事前に了承得た上で調整し、基本的には行えるようにしたい。

## 7. UDJ事業報告

雪国観光圏 フジノ氏 より、以下のとおり説明があった。

昨年度「Undiscovered Japan周遊モデルコース造成事業」で造成した8つのモデルコースをUndiscovered JapanのHPで公開する準備をしている。 HPで8個のモデルコースを掲載。

(例として)九州の場合は3つの観光圏をまたぐのでもまず3つを紹介し、その下に日程、さらに写真とテキストを紹介する。中身については、昨年のPDFの内容を盛り込んでいる。

関心を持った方は穴吹トラベルさんを窓口に行っている。日本語サイトも内容と構成は同じ。

内容を皆様でご確認いただき、修正があれば1週間ぐらいの内にご連絡いただきたい。各地域のコンテンツは既に公開済み。これが今年度取り組んでいるWEBページへの掲載となる。

定期的にFBでも発信している。 週に1回各観光圏のexperienceを紹介している。

モデルコースについてWEBサイトに公開されたらFBでも紹介する。

英語のFBについては15000弱のファンがついている。

(植田委員長)

今年度はスライドを制作している。ipad等にデータを入れて商談したりできる。

穴吹トラベルに事業を依頼し、今年度中には皆様に披露できる。

◇サクラクオリティについてお知らせ (豊の国千年ロマン 佐藤様より)

調査員セミナーはWEBセミナーという形になりましたが、ご参加ありがとうございました。

パンデミックから1年半たち、新規加入ができない状態。認証機関の延長をしている。

今後、サクラクオリティアンバサダー(フェイズ2の覆面調査員)として研修を行う。7月下旬に調査項目の勉強会・座学会・練習会を行う。各観光圏に1名ぐらいは、覆面調査員を養成して頂きたい、という要望がきている。ぜひトライして頂ければ、と思う。詳細は動画の準備ができれば、配信させて頂く。

## 8. 総括

清水アドバイザーより以下のとおり総括があった。

2点だけ繰り返しになるが確認させて頂きたい。

1 観光圏制度の意義を、内部的にも国としても、観光業界としても、観光地域づくりのトップ集団なんだという体制に名実ともになっていく必要がある。

キーとなるのは観光地域づくりMGの方々の存在になる。観光圏が単独市町村ではできない、自治体だけではできない、フレームワークだと思う。改めて全員で考えていく時期である。MGに関する調査を重視していきたい。

2 観光圏全体としての他の地域と差別化する

Undiscovered Japanはインバウンド向けに他の地域と差別化する1つの手段。

ネーミング、違うブランディングのやり方もあるのかもしれないと考える時期にきているのかと思う。個々の力量と全体としての力量と意義をMGという存在を核にして、皆さんとこの1年議論していければと思う。

## 9. その他

◇日本観光振興協会総合調査研究所 近藤千恵子氏より

「コロナ禍における観光旅行に対する意識・実態」について資料に基づき説明があった。

(詳細は資料参照)国内限定の宿泊観光旅行に特化した調査(全国47都道府県対象)

◇(小林会長)

調査はどこまで公表されるのか、全体の傾向はフィードバック頂けるのか。

その結果をどのような形で使われるのか。また、共有いただければ、と思う。

⇒(観光庁回答)何かしらのフィードバックはしたいが、観光庁の方針が決まり次第回答させて頂く。

(小林会長)

観光地域づくりMGの活動なのか、各事業に取り組んできた活動なのか、  
どれが今回の1番の判断材料かを合わせて情報共有していただければ今後の観光圏の継続するに当たって、課題がクリアになればと思う。できれば9月ぐらいまでに決めていただければ、と思う。

(阿蘇くじゅう観光圏)

重点支援DMOはいつごろ発表になるか。

⇒ (観光庁回答) まだ、いつかは発表できない。

## 10. 閉会の挨拶

井口副会長より以下のとおり挨拶があった。

観光圏はほったらかしにしたら、消えてしまった。今回、活動調査で観光庁の中に記録を残すという意味ではありがたい。いいアンケートにまとめて観光圏の意義をもう一度理解してもらいたい。

観光地域づくりという側面も観光圏にはあるが、基本「訪れてよし」という地域を作ってから「住んでよし」なのではないかと個人的には思っている。

地域づくりとブランドと2つの側面があるが、ブランドをどう作っていくか、地域の人が誇れることで結果的に「住んでよし」に繋がると思う。もう一度ブランドの意義を観光圏で議論して頂きたい。

### ■特記事項 (写真・模様等)

